

2020年度 学校自己評価・関係者評価

評価

A:よい

B:おおむねよい

C:不十分

学校番号 72 長野県木曾青峰高校 定時制

総合評価			学校評議員評価	
			評価	コメント
<p>今年度はコロナの影響により様々な活動が制約を受ける状況の下、5つの重点目標の実現に向け、各対象事項において可能な限り例年並みを目指して取り組んだ。安心・安全な環境づくりを目指している。少人数教育の良さを十分にいかし、生徒一人ひとりに丁寧に向き合う体制がとられた。</p> <p>さらに生徒指導・生徒支援がより手厚くなり、ほとんどの生徒がとても成長できたと感じる。しかし、卒業後の事を考えると、社会の一員として頑張れる力がまだまだ足りない部分もあり、雇用の厳しくなる世の中で、生徒一人ひとりが将来を考えて行動できるよう指導していく必要がある。今後も生徒の成長支援のために、職員間および学校と外部機関の連携をすすめ、各担当分掌の取り組みの更なる充実をはかりたい。また、あらゆる事に対して、対応が遅れることのないよう、職員間の情報の共有、連携をより強くしたい。</p> <p>コロナ収束まで、授業時間の確保、行事の実施など学校の運営に関しても、状況に応じて最大限の努力をしたい。</p>			A	<p>○例年ですと蒼陵祭、生活体験発表会での生徒の頑張っているに感動してきました。今年度も同じように大いに成長していると考えます。</p> <p>○生活体験発表を聞かせていただき、それぞれに大変な環境の中、学校生活や地域でのアルバイト生活の中で、目標を見出し充実した毎日を送る姿に感動しました。</p>
成果と課題	自己評価	改善策・向上策	学校評議員評価	
			評価	コメント
<p>重点目標① いじめ・体罰などのない安心かつ安全な学校づくりを進める。</p> <p>【成果と課題】 ほとんどの生徒は落ち着いた雰囲気、特に問題のない学校生活を送っているが、精神的に幼いため、周りの人の気持ちを理解できずに自分の思い通りに行動してしまう生徒が、全体の雰囲気を乱してしまうことがあり、指導に苦慮する事例があった。</p> <p>コミュニケーション不足等による生徒間のトラブルに対しては、専門家の協力を得ながら対応したが、今後も継続的な指導が必要である。また、スマートフォンの使用によるトラブル防止指導も繰り返し取り組む必要がある。</p> <p>職員対象の非遵行防止研修会により、体罰防止の意識も定着している。</p> <p>また生徒の登下校の安全をはかるため、気象や交通の情報を把握、メール配信システムの活用により対応できた。</p>	A	<p>落ち着いた学校生活環境が醸成されてきたが、一人でも雰囲気乱す生徒がいると、トラブルに発展してしまうため、該当の生徒への指導を根気強く続けるとともに、周囲の生徒への手厚いフォローが不可欠である。また研修会や学習会などにより、コミュニケーション能力の向上や社会性の定着を目指すとともに、生徒の些細な変化にも気づけるよう、全職員が常に意識し、どんな小さな事に対しても情報共有を徹底したい。</p> <p>不測の事態・重大な気象状況(台風、大雪等)の場合は、今後もあらかじめ適切な対応策がとれるようにしておく必要がある。</p>	A	<p>○一人の生徒により全体の雰囲気乱してしまう事は先生方も大変苦労されていると感じる。職員間の情報を共有を通して生徒の心の改善に尽力されたい。</p>
<p>重点目標② 学習・生徒指導の両面から生徒一人ひとりを大切にする教育活動を推進し、社会に出てからも通用するような生きる力と豊かな感性をはぐくむ。</p> <p>【成果と課題】 個人面談等を通じて、生活面や学習面に対し、丁寧に生徒の相談に乗ることができた。</p> <p>アセスや生活・授業アンケートを利用し、生徒ひとり一人の意識・意欲を把握し、授業や行事の運営にフィードバックすることができた。</p> <p>学校での学習が、アルバイト等で得た社会での生きる力を補完するものとなると良い。</p>	B	<p>基本的に毎日登校し、机に向かうという習慣形成を重視し、学習面、生活面ともに、学習面、生活面ともに、生徒一人ひとりに対し、生徒の潜在能力を引き出すため、さらに根気強く指導を続けたい。</p> <p>相手の気持ちや、周りの状況を理解する力が不足している生徒に対して、適切な時に、適切な場で指導する必要がある。また、SSTを含め、社会で必要不可欠な資質向上を促す研修や学習を多く取り入れたい。</p>	A	<p>○上記の課題に似た目標であるが、SSTを含め改善へのご努力をお願いしたい。</p> <p>○対応が難しい生徒が増えていと思うが、ていねいな指導で成長していくことを期待している。教師の専門性も高めたい。</p>

<p>重点目標③ 生徒が希望する進路を実現するための基礎的な学力及びコミュニケーション能力を育み、社会的適応力を高める。</p> <p>【成果と課題】 様々な外部講師による講習会を実施したことにより、生徒自身普段と異なる刺激を受けることができ、生活態度の向上、社会への意識向上がみられた。</p> <p>コミュニケーション能力やマナー等については、家庭環境に影響される部分もあり、生徒ごとに差が大きいので、適応力が身につけにくい生徒の能力向上のための指導は難しい現状もある。</p>	<p>B</p>	<p>4年間で進路学習を系統的に複数回位置付けていく。アルバイトを通して学んでいることも大きいので、それを生徒と職員で共有し、指導に活かしたい。</p> <p>SSTを定期的に行い、進路・就職活動や社会人としてのスキルを学ぶとともに、生活の中に活かせる指導をしていく。</p> <p>コミュニケーションツールの取り扱いなど、様々な講習会や講演会を計画し、生徒に自己の在り方や生き方について刺激と情報を与える。また、家庭環境改善のため、保護者への啓発を自治体と協力し促していきたい。</p>	<p>B</p> <p>○家庭環境に影響される生徒については慎重に、また、将来の生徒の生き方に関わるので、学校全体で問題を共有して欲しいと思います。</p> <p>○外部のプロから学ぶことは、生徒にとって良い学びになる。大人の姿に憧れる機会となるとよい。</p>
<p>重点目標④ さまざまな活動を通し、地域との連携と開かれた学校づくりを推進する。</p> <p>【成果と課題】 定時制説明会等において、同時に授業公開を実施した。</p> <p>また、地域の保健師や支援員などとの支援会議や、意見・情報交換の場を頻繁に持つことができた。</p> <p>コロナ影響による制約もあったが、校内生活体験発表会を実施し、外部からも参加していただいたので、次年度以降も継続したい。</p>	<p>B</p>	<p>地域の保健師や支援員との交流により、生徒へ多面的な指導ができるようになっていっているので今後も継続していきたい。さらに地域の方々に応援・サポートされる環境づくりのため、学校行事などの広報活動も必要である。</p> <p>様々な活動を体験させるため、定時制や生徒会として、地域に貢献する活動、行事にも参加できるよう働きかけたい。</p>	<p>A</p> <p>○配慮の必要な生徒について、スムーズな社会生活への移行に向け、早い段階から連携させていただければと思います。</p>
<p>重点目標⑤ 「夢に挑戦する学び」への対応を進める。</p> <p>【成果と課題】 卒業後の進路や、自分に対するの自信につながるような、資格取得などにも取り組めれば良いと感じている。興味・関心を持てるものがあれば、積極的に取り組み、挑戦して欲しい。</p>	<p>B</p>	<p>小さな達成感を積み重ねることでチャレンジする意欲を高めていく。資格取得などの希望者の拡大を目指したいが、現状でどのような資格を取得できるか、把握しておく必要がある。また、資格取得以外の「学び」についての検討も必要である。</p>	<p>B</p> <p>○資格取得ではまだ不確実な展が多いようですが、速やかな取組みを期待します。</p>

評価項目		自己評価	改善策・向上策	学校評議員評価	
				評価	コメント
学習指導	授業内容(補充授業を含む)の充実と出席率の向上	B	生徒の実態に応じた課題や教材の選定により、生徒の興味関心を引き、基礎学力の定着や出席率の向上をはかる。また、アルバイトによって学業がおろそかにならないよう指導する。 ICTの積極利用など職員研修とともに他の教員の教え方を学ぶ機会を大切にしたい。	B	○生地指導の中で主席率の向上は重要であるため改善をお願いしたい。
進路指導	進路目標の明確化と進路実現	B	1、2年時の早期から将来の進路への意識付けをし、進路学習の機会を設定できると良い。2、3年次には、就労支援センターやハローワーク等に依頼し、ガイダンスや説明会を行ないたい。さらに遅くとも3年の冬までには進路の方向を見据えられるように、就職等の概要を把握し、具体的な進路活動を開始できるような指導・支援が必要である。	B	
	キャリア教育の推進	B	アルバイトは就労体験として大切であるが、それだけに頼らず、1年次から少しずつ将来のことを考えさせていけるよう、進路講話、個別指導の充実などのキャリア教育に一層力を入れたい。	B	○キャリア教育については、モデル校を参考に取組み組んで欲しい。 ○人としてのキャリア形成を目指して欲しい。
自主活動	クラブ・生徒会活動等自主活動の活性化	B	今年度はコロナのため、活動が制約されてしまった。次年度は、生徒全体で行事に取り組めるような手立てを考えていく必要があるため、生徒の声を大切にしながらい指導内容を検討し、職員が生徒と共に企画・運営を行っていく。	B	
生活指導	基本的社会性を持った人間の育成	B	時間を守ること、清掃などにしっかりと取り組むことなどを生徒・職員共に意識する。また、職員が模範となるよう、挨拶や社会的マナーを職員側から実践していく。	B	○基本的なことなのでぜひ職員が自ら取り組む姿勢を示して欲しい。
	全職員による生徒の状況把握(情報の共有)	B	常に生徒の様子などを情報共有するため、担任会などの活用の強化、緊急時における臨時会議等により、共有する機会を増やす必要がある。さらに全職員で生徒一人一人の特性、課題、接し方等を、密に情報共有することにより、役割を分担しながら全職員で問題に対応していく。	A	
	相談体制の充実発展	A	SCの活用や保健師との連携などよくできている。アセスの実施後、長期休業前の全員面談など、定期的な面談を継続していく。	A	
	家庭・地域社会との連携	B	担任のみならず、職員全員が家庭・地域と連携する機会を増やせると良い。コロナによる制約もあったが、職場訪問、家庭訪問は効果的に行うことができたので、今後も継続する	A	
学校運営	緊急時保護者への連絡体制の完備	A	大雨等の際など、メール配信システムを利用した生徒保護者への連絡、安否確認などよくできている。今後も緊急時の職員の連絡方法や生徒の安否確認方法、必要な物品、連絡簿などの書類の共有、管理が出来るよう周知徹底する。	A	
	学校ホームページ・パンフレットの充実	A	学校ホームページ・スクールマガジン等の定時制枠を拡充し、定時制課程の更新を定期的に行う。	A	
	授業等の公開	A	コロナの影響で中止、延期になったが、中学生には複数回実施できた。また、中学校等からの個々の問い合わせにも対応し、随時授業を公開した。	A	